

すべての原発いましてなくそう！全国会議

NAZEN 通信



第57号

2018.1.11発行

カンパ 5.0円

発行：NAZEN 事務局

東京都杉並区天沼 2-3-7 さかいビル 3B

info@nazen.info

被曝労働拒否！ 労働組合で団結し 被曝と帰還の強制、再稼働とめよう

子どもたちを放射能から守ろう、すべての原発をなくそうと日夜奮闘している全国のみなさんへ、新年のご挨拶申し上げます。新しい年のみならず、「命より金儲け」の社会を終わらせ新しい時代を迎えるために、心を一つに声をあげていきましょう！

福島においては甲状腺検査の縮小・廃止、さらには避難者の住宅追い出しとJR常磐線の全線開通を通じた被曝と帰還の強制、すべてをなかつたことにする政策が加速しています。真実を隠して県民を分断し被曝を強制し、子どもたちの未来と引き替えに自己保身と金儲けに走る安倍政権を絶対に許してはいけません。安倍政権は改憲、原発再稼働、天皇制存続、労働組合の解体とそのための働き方改革、そのすべてにおいて行き詰まり、2020年東京オリンピックで必死の突破を狙う。3年間の闘いが勝負です。

動労水戸は、JR常磐線の全線開通に対して、乗務員はじめすべての鉄道労働者の被曝労働を問い、帰還を強制される住民の安全を守るために、被曝労働を拒否してストライキで闘い続けています。さらに、全国で原発再稼働をめぐる



昨年12月13日、広島地裁は伊方原発3号機の運転差し止め決定！ 闘いの成果だ！

特に労働者や住民の被曝と切り捨て必至の事故時の「避難訓練」に対して「労働者も住民も被曝してはならない」と労働組合が先頭にたつて反対しています。

戦争への怒り、職場の過労死や低賃金、人間をモノのように扱うことへの怒りとも一つに、労働者・住民が労働組合のもとに声をあげ安倍政権をぶっ飛ばそう。常磐線全線開通反対のゼネラルストライキを起こそう。これだけ怒りが満ちている今だからこそ絶対に可能です。この間違った社会を変えるのは私たちの力です。全国で署名運動を進め、3・11郡山に集まろう。

- ◆再稼働のための検査打ち切り 検討委での「過剰診断論」に反撃を 建設委員会事務局 … 2ページ
- ◆組合旗林立させ3・11に「希望のざわめき」を！ 椎名千恵子 … 3ページ
- ◆「住民も労働者も被ばくしてはいけない」愛媛県職労1・13集会へ … 4ページ
- ◆被曝労働拒否が戦争を止める労働者の闘いになる 舞鶴からの報告 … 5ページ
- ◆避難者を住宅から追い出すな NAZEN事務局 … 6ページ
- ◆NAZENヒロシマが総会 福島の怒りとつながる拠点 … 7ページ

再稼働のための検査打ち切り 検討委での「過剰診断」に反撃を

福島診療所建設委員会事務局・遠藤義人

●甲状腺がん学校検診の廃止を狙う福島医大

福島県「県民健康調査」の第29回検討委員会が昨年12月25日に開催された。前回から委員に就任した大阪大学講師の高野徹委員は、「スクリーニングで死亡率が改善するわけじゃないことは学術的にすでに決まっていること」「学校で授業の合間に検査を行うことは強制性がありやめた方がいい」と「過剰診断」を理由に学校での一斉検診を辞めるよう求めた。

これにたいして、検査を担当している福島県立医大の緑川早苗医師は、「早期診断にメリットがないことを説明できていない。親御さんに十分理解してもらっているとは思えない」「学校での受診率はゆうに90%を超えている状況。『受けない』意志表示をしにくい状況と言わざるをえない」と回答。

表向きは「受診率の低下をなんとかしたい」と言っている福島医大が、甲状腺検査について、「早期発見早期治療にメリットがない」という立場であることを隠そうともしなかった。

●かなりの数の甲状腺がんが隠されている

県民健康調査の公表データに含まれていない多数の症例が、この間明らかになっている。

昨年3月、当時4歳の男児の甲状腺がんが判明し、「経過観察」中に甲状腺がんが見つかった場合はデータに含まれていないことが分かった。民間の支援団体による患者へのアンケート調査で、さきの男児を含む少なくとも8人が県のデータに含まれていないことが公表されている。甲状腺がんの子どもは明らかになっただけでも200人を超えているということだ。

さらにこの日の検討委員会で、東京で臨床医をしている清水一雄委員が、県民健康調査の枠外で甲状腺がんと診断された子どもを手術したことを明かし、県に報告したのにデータに入っていないと指摘した。福島医大は2700人の子どもを「経過観察」としている。この中から何

人ががんになったかを公表していない。さらに、はじめから枠外の子どもも考慮すれば、いったい何人の子どもが甲状腺がんになっているのか、という恐るべき事態が進行している。

●「国際専門家グループ」IARC

一昨年の暮れから、環境省の主導で、「放射線に関する国際的、科学的、第三者的知見」を県民に広くわかりやすく伝えていくための第三者機関の設置が言われていたが、その実態は原子力推進のIARC(国際がん研究機関)による「甲状腺モニタリングに関する国際専門家グループ」であった。

グループの目的は、今後また放射線被曝事故が起きた際に甲状腺モニタリングをどうするかを議論することだ。1月11日に福島市で、このグループの構成員全員(21人)と検討委員や甲状腺評価部会員との公開意見交換会が持たれたので傍聴してきた。発言したメンバー全員が「過剰診断」論であり、福島の検査については「これだけの大規模な小児のスクリーニングは世界初であり重要な経験」と語り、なかには「アメリカ、パキスタン、インドなど原子力を使っている国でフクシマと同様のことが起こる可能性があるのでサポートしていきたい」との露骨な発言まで出て、怒りなしには聞いていられなかった。そして全員口をそろえて「フクシマはチェルノブイリと違う、線量は低い」と主張した。福島をモルモットにして原子力をさらに推進する連中によって甲状腺検査が縮小されることなど絶対に許してはならない。

翌12日には、26日に第9回甲状腺評価部会の開催が決まった。すさまじいスピードだ。敵の焦りの裏返しであることをはっきりさせ、ふくしま共同診療所とともに反撃していこう。



3・11 郡山に「希望のざわめき」を！

NAZENふくしま 椎名千恵子

別稿の検討委員会報告で明らかなように、安倍戦争政権と福島県は、小児甲状腺がんの多発を「過剰診断」論で逃げ切り、エコー検査の縮小・打ち切りを狙っています。「福島原発事故」もみ消し、福島抹殺の攻撃です。しかし、原発事故から7年間、あらゆる辛酸をなめ、いのちを脅かされてきた福島の怒りは、「絶対反対」の根底的なものです。臨戦態勢下の沖縄での事故続発、三里塚の農地強奪、そして労働者の大量解雇、あらゆるところで満ちている怒り「安倍を倒して、国を変えよう」と一体です。3・11の怒りの爆発が天皇制打倒、オリンピック粉砕を決めます。「これ以上奪われてたまるか、殺されてたまるか」、3・11反原発福島行動の大会場をこの声で埋め尽くしましょう。

●「かだつてんでねッ！」

※「かすかだつてんでねッ」(福島弁でふざけたこと言っただけじゃないぞコノヤローの意)

浪江から避難している元畜産農家の御夫婦が金曜行動で星野署名に協力してくれました。夫妻は、その後会うたびに国のウソ、詭弁、分断政策を地元の言葉で気持ちいいくらいに一喝してくれます。

山形の自主避難者は「住宅から出て行け」と国から訴えられても居残り、実力闘争に挑んでいます。福島県も避難者への住宅追い出し提訴を始めました。この3月31日には生活補償金も打ち切られます。高線量地に帰還を強制される避難者の数や実態を把握し、寄り添うべき側が本末転倒もいいところです。

追い詰められ自死したお母さんもいる。こんな悲報こそ打ち止めにしたい。国と東電は責任とれよ！「避難者」の文字も存在すらも消され、保養は「風評被害をあおるからやめろ。福島から出て行け」という攻撃の的になる。これ以上こんなことは許せません。

「いまだに大量の鼻血をだす子どものいのちを守りたい」「白血病で亡くなった子どもが身近にいる」「低線量被曝が不安」。これが保養者

の叫びです。保養は闘いです。3・11に向かう闘いは、これらの怒りを行動へと変える水路です。福島は闘いの地平を決死に固めます。

●労働者の闘いに希望がある

常磐線開通の本質は、原発事故をなかったことにして、福島を切り捨て、避難者の存在をなくすことです。労働者の闘いが希望です。3・11の闘いの基軸です。動労水戸は、「運転士も車掌も検修も清掃も、そして周辺住民もだれひとり被曝させてはならない」とストライキで被曝労働(業務命令)を拒否。交番検査を阻止し、青年たちの心をつかみ、組織化を勝ち取りました。その闘いに動労福島が続いています。動労千葉の田中委員長は、「動労総連合は戦争と改憲を絶対に許さない闘いを」と強調します。戦争をとめる力がここにあります！

今年の3・11は日曜日です。にもかかわらず、日にちをずらして、しかも第一原発から15キロの楢葉町で、労働組合員たちを動員しようという動きがあります。常磐線竜田駅からのバス送迎です。「常磐線開通歓迎」、復興キャンペーンの応援団に労働組合がなっていないはずがありません。現場の教師たちや、役場の職員たちの思いはどうなのでしょう。

私たちは常磐線全線開通反対を訴えて、現場の労働者に、3・11反原発福島行動への参加と賛同を呼びかけていきます。福島の怒り、ふくしま共同診療所、気炎燃えさかる労働組合旗の林立でデモを成功させ、3・11郡山の階級の大地に希望のざわめきをおこしましょう。

もぎとった！伊方原発再稼働差し止め このまま廃炉へ！ 「住民も労働者も被ばくしてはいけない」



愛媛県職労 1・13集会へ

N A Z E N 愛媛事務局 平野明人

2017年12月13日に、広島高裁は伊方原発3号機の運転差し止め、今年9月末まで運転を認めない決定を出しました。この決定は、闘いの力が裁判官をして「いったん再稼働を止めるしかない」というところまで「追い詰めた」ことの結果です。この決定もさらに使いきって、伊方原発と全原発を廃炉に追い込みましょう。

昨年11月11日の伊方原発ゲート前集会での愛媛県職労副委員長中村圭司さんのアピールを抜粋して紹介します。

労働組合ですから、いろんな意見があると聞いています。執行部は組合内での率直な議論を求め、組合で団結することをこの集会の最大の課題としています。愛媛県職労との団結を、全国から参加、メッセージお願いします。

被曝拒否で廃炉をかちとろう

中村圭司（愛媛県職労副委員長）

私たちは、県職員として、労働組合として3.11福島原発事故以降、改めて原発の再稼働阻止と即時廃炉を求めて取り組みを進めています。原発の稼働は私たちにとって職場の労働安全衛生の課題です。「被ばくの避けられない『原子力災害対策業務』は県職員が従事することはできないことから、伊方原子力発電所を再稼働せず、廃炉としたうえで安全に管理していくよう、四国電力に要請すること」という項目を掲げ、団体交渉を要求し交渉を続けています。県当局は「職員の安全の問題であり、重要なことだ」と言わざるを得ず、この課題を避けて通ることはできません。

内閣府は、2016年1月5日「オフサイトの防災業務関係者の安全確保に関する検討

会」報告書の中で、「オフサイトで対応にあたる防災業務従事者については、その安全確保に関して、必ずしも制度的な措置がなされていない状況にあることから、論点を洗い出して、今後、防災業務関係者の安全確保に関するマニュアル等の具体化を進める」としていましたが、1年半以上経過した現在も頓挫しています。労働者の安全について、建前としての対策さえ示せないのに原発を稼働させている状況で、許されません。

原発事故の推移や放射性物質の放出は予測できないので、線量管理などできるわけがありません。そして私たちがこのような状況に置かれる時、住民の皆さんも、「災害対策業務」を求められる皆さんも、そして原発・関連施設で働く方々は最も危険な状況です。そして労働者は、危険な状況であったとしても、住民の方々に前にはずればその場から自分だけが避難するということはできないのではないのでしょうか。

何よりも、住民の皆さんの生命と生活を守っていくことが自治体労働者の最も重要な役割です。黙っていれば、住民の皆さんに「原発は安全だ」「避難計画があるから大丈夫だ」などと、事実と異なることを伝えていくこととなってしまいます。そのような立場に立ちたくはないし、立ってはならないと思います。

自治体労働者や、病院や介護施設・関連機関、避難輸送を担われる公共交通機関に働く皆さんが、原発労働者が、それぞれの職場から「住民避難や原子力災害対策業務は労働者の安全が守られないから、対応はできない。原発は動かさないうえ廃炉にするしかない」と求めていけば、原発は必ず止められると思います。1月13日（土）には松山市で組合として集会を持ちます。よろしくお願いします。

【舞鶴からの報告】

被曝労働拒否の闘いが 戦争をとめる労働者の闘いになる

(NAZEN 京都 見谷 渉)

朝鮮侵略戦争が切迫している今日、「戦争が始まる前にゼネストをとめる」闘いが求められています。京都府職労舞鶴支部は昨年2・26舞鶴反原発集会を起点にして、反原発闘争の地域拠点となりつつある中で、同時に反戦闘争の拠点となることも問われています。原発立地地域の舞鶴は、実は「軍都舞鶴」でもあります。被曝労働拒否の闘いが、戦争をとめる最大の労働者の闘いになります。そうした観点も含めて、舞鶴での被曝労働拒否の闘いを中心に述べたいと思います。

■避難計画で人員指定をさせない闘い

原発災害時における「避難計画」は、自治体労働者をはじめとした防災業務従事者に、労災認定基準をも超えた高線量の被曝を強制します。そして、原発事故とは放射能の放出とそれに伴う、外部・内部被曝の強制です。舞鶴支部は、「被曝して働くのか」「被曝してまで誰のために働くのか」と問いかけ、自らの労働の問題として被曝労働拒否を訴えてきました。

現在、内閣府が作成した「緊急時対応」（避難計画）では、「警戒事態」に際しては京都府は43人を動員するとしています。具体的な人員の動員計画の策定はできていません。指定できない。労働組合との力関係で、当局が策定できないことを強制していると言えます。労働組合の職場闘争の課題として、被曝労働拒否＝人員指定をさせない闘いを継続し、京都府を追いつめることが重要です。

■地域の闘いのよりどころに

また、それは同時に地域住民の〈命と生活〉を守る闘いの先頭に労働組合が立っているということでもあります。舞鶴支部の闘いは、福井県高浜町おとみ音海地区や舞鶴市あせく朝来地区での「高浜原発1,2号機運転延長反対」「災害弱者の安全確保要求」の闘いと結びつこうとしています。



9月の舞鶴の集会では、地元の中学生在が集会に合流して「戦争反対！原発反対！」とコールして集会参加者と一体になりました。

■安倍の戦争政策との対決そのもの

次に、被曝を前提とした避難計画は戦争訓練に繋がる点についてです。

北朝鮮のミサイル発射を口実にJアラート（全国瞬時警報システム）を使って危機を描き出し、自治体労働者を戦争体制に動員していくことは、原発事故を想定した避難訓練と同じです。事実、2016年8月の高浜原発の三府県合同訓練では、CBRNテロ（化学、生物、放射性物質、核を用いるテロ）の専門部隊である陸上自衛隊第3特殊武器防護隊が丹波自然運動公園（京丹波町）で除染訓練に参加しています。

最後に、被曝労働拒否闘争は原発関連会社で働く労働者（福井県高浜町、就業者数の約3分の1が関連企業に就労）への強力な決起の呼びかけになります。2・26舞鶴集会で、八尾北医療センター労組が取り組んだエコー検査に元原発労働者も受診したことは、このことを示しています。

動労水戸の被曝労働拒否闘争は、愛媛、舞鶴へとつながり、全国の反原発闘争、被災地の闘いと団結を築き、原発即時廃炉の闘いへ発展しています。「すべての原発を今すぐとめよう！」の旗の下で、労働組合が軸となって被曝労働拒否闘争を拡大していこう！ゼネストで朝鮮侵略戦争をとめよう！

山形に続き 東京の避難者に福島県が申し立て 避難者を住宅から追い出すな

□東京5世帯へ家賃口実に追い出し狙う

昨年3月末の避難指示解除に伴い、避難者の住宅無償提供が打ち切られました。しかし、放射能汚染地域に戻るわけにもいかず、多くの家族が元の住宅に住み続けています。福島県によると、「10月20日時点の未退去者は100世帯、県内46世帯、県外54世帯」。

昨年9月、山形県の残留避難者8世帯に、明け渡しの提訴が行われました。元々は雇用促進住宅でしたが、^{あぐらつ}民営化された新しい機構が提訴するという、実に悪辣なやり方です。12月21日には厚労省・復興庁に1万978筆の緊急署名が提出されました（写真）。N A Z E Nは全国で署名を集めました。裁判はすでに口頭弁論が行われており、追い出しを絶対に止めましょう。

12月には福島県議会が、東京都内の国家公務員宿舎に住む5世帯に、家賃支払いの調停を申し立てることを決めました。「1世帯当たり月2万～8万円の家賃の滞納」というのです。家賃も払えないほど困窮しているのだから、元の無償提供に戻せばいいではないか。ところが逆に、家賃滞納を口実に追い出そうとする。避難者の生活と命をなんとか思っているのか。避難している子どもたちにそんなことをしていいのか。避難者最多の東京でこんなことを許したら全国に波及します。ここが勝負どころです。

□命と健康を守るための避難の権利

原発大災害で被曝から命を守るには、何よりも避難です。1986年のチェルノブイリ原発事故では、避難の権利を認めさせました。当時のソ連政府は、避難を要求する学者や医者

を暗殺しようとしたり投獄したりしました。そうした弾圧に負けず、事故収束作業従事者（リクビダートル）を先頭にストライキとデモに立ち上がりました。91年には、避難を認めなかったソ連スターリン主義体制を打倒し、避難の権利を明記したチェルノブイリ法を実現しました。革命によって避難の権利を勝ち得たのです。

原発推進の世界の支配者たちは、チェルノブイリの経験から、革命を防ぐために避難させないことを国際的合意としてきました。しかし福島では10万人以上の避難者が出ました。政府も福島県も、これを放置すると体制が崩壊するかもしれないと恐れ、避難の事実を消し去ろうとしているのです。そのためなら、20^ミシーベルトの高汚染地域に帰還させる、という殺人的行為を平然とやっています。小児甲状腺検査を縮小し打ち切ろうとしているのも、“健康被害はないから帰還せよ”と強制する狙いです。現体制を守るためなら、人の命などどうなるとかまわない、という人類史上の大罪ではないですか。こんな体制は打倒して、人の命を、子どもの未来を守れる社会に変えましょう。

□福島署名を広め被曝労働拒否の闘いを

避難者の住宅追い出しを止めるため、「被曝と帰還の強制反対署名」を広めましょう。この署名運動の意義はますます豊かになっています。福島で行われている人の命、子どもの未来の無視・抹殺に対し、あらためて怒りを巻き起こす運動です。それほどの悪行が政府・福島県・マスコミによって隠されたり、大嘘がまかりとおっている現実を直視しなぞす運動です。何よりも、一人では無理かもしれないが、団結して声を上げれば必ず真実が貫ける運動です。

この福島署名運動を魂にしテコにして、それぞれの職場・地域で被曝労働拒否を闘いましょう。動労水戸に続いて、被曝労働拒否闘争を発展させましょう。（事務局 伊谷）

福島の怒りとつながる拠点を

(NAZENヒロシマ事務局・吉永)

12月9日、NAZENヒロシマの第6回年次総会を開催し、会員ら35人が集まりました。呼びかけ人の室本けい子さんが開会あいさつ。被爆者でキリスト者の吉原美玲子さん、ふくしま共同診療所の布施幸彦先生、NAZENえひめの仲間からメッセージをいただきました。NAZENヒロシマ事務局長の矢田三恵さん(高陽第一診療所労組書記長)から基調と活動報告、被曝労働拒否と避難・保養・医療の運動を軸に福島の怒りとつながった労組と地域の拠点をつくりたいという来年度方針の提案があり、拍手で確認されました。続いて大江厚子さんから安芸太田町での夏の保養の報告が、プロジェクターを使って行われました。7月21日から8月19日まで約1か月、12家族34名の親子を迎えた、のべ69泊70日の保養です。地域の協力と団結があってこそできることです。保養された親子の笑顔の写真や感想が紹介され、感動するとともに、原発事故と安倍政権の復興の名による福島庄殺と再稼働への怒りがあらためてわいてきました。学習として、動労水戸の被曝労働拒否、常磐線延伸阻止闘争について、高陽第一診療所労組の森末一義委員長から提起がありました。

動労西日本は安倍の雇用破壊、戦争阻止のためたたかいを職場生産点から作っていきと訴えました。島根県江津からも「子どもたちの未来は私たちの将来」と再稼働と戦争反対の決意表明がされました。最後に被爆2世の渡子健とのこさんが結成以来の闘いを振り返り、「もう一歩組織的な闘いに踏み出そう」と提起。年会費とカンパも集め、2018年の闘いをスタートさせました。※安芸太田町の「2017年おやこ保養報告集」1部200円です。希望される方はNAZENヒロシマ(hiroshima.nonuke@gmail.com)まで。

◆被爆者からのメッセージ



NAZENヒロシマ呼びかけ人
吉原美玲子さん

3・11、あの日からあと3か月で7年になろうとしている。12月4日の新聞に「事故の痕跡、遠い廃炉」と、福島第一原発事故の後始末がまだまだ時間がかかる様子が、数枚の写真と共に掲載されていた。この様な大事故を起こしたにも関わらず、国は原発の再稼働を容認し、除染ずみとして避難者に帰還命令を出し、住宅支援の打ち切りを行おうとしている。福島県の子どもの甲状腺癌がすでに200人近くにもなっているのに、国と県は被曝の影響とは考えられないと言っている。

広島で被爆した1人として、被曝労働拒否を貫いてほしいと思う。私のように知らぬ間に被爆し、被曝したのとは異なり、明らかに被曝するということがわかっている状態をそのままにしておくわけにはいかない。常磐線開通も腹立たしく憤まんやるかたない。

これからも、私は福島に思いを寄せ、福島診療所が一日も早く本格的に建設されるようにと支援金を送り続けたいと思っている。



スケジュール

■都庁解雇撤回！座り込み

と き 1月25日(木) 17時～19時
 ところ 新宿・都庁議事堂レストラン前
 主 催 都庁ふくしま署名解雇を許さない会
<http://totyofuku.blog.jp/>

■神奈川東電デモ 街頭宣伝

と き 1月26日(金) 18:00～19:30
 桜木町駅前街頭宣伝

■「吉田和雄写真展～保養で生き返る フクシマの子どもたち in ナガサキ」

と き 1月26～29日は10～19時
 1月30日は10～17時
 ところ コクラヤギャラリー3階長崎市万屋町1-26
 主 催 NAZENナガサキ

■東京・福島原発避難者の声を聞く会

と き 2月4日(日) 13時半～
 ところ 豊島生活産業プラザ201号室
 主 催 NAZENいけぶくろ 03-6914-0487

■ふくしま保養交流会

と き 2月11日(日) 13時から
 ところ 郡山市中央公民館(勤労青少年ホーム)調理室
 /免疫力を高める「発酵食の講座」/フリートーク/春の保養情報など

■ふくしま共同診療所報告会&無料エコー検査

と き 2月12日(月・休日)
 ところ 福島県郡山市中央公民館
 無料甲状腺エコー検査 午前10時～正午/第1講義室(※要事前予約)
 報告会 午後2時から/第3・第4講義室
 主催 ふくしま共同診療所 024(573)9335



今年もよろしく願います。年会費は1月に更新ですので、会費の更新をお願いします。年会費個人一口2000円、団体一口3000円です。北富士保養カンパも通年で受け付けていますのでよろしく願いいたします。

◆◆◆ 郵便局 振替口座 ◆◆◆

口座番号 00120-8-763817
 加入者名 NAZEN
 銀行口座からの振込の場合 〇一九店 0763817
 ※振り込みの際は、「年会費〇人、〇団体分」
 「保養カンパ」などお書き下さい



■講演・福島原発事故の取材から考える

講師 白石草さん(Our Planet-TV代表)
 と き 2月15日(木) 18時30分～
 ところ 劇団展望(東京杉並区阿佐ヶ谷南3-3-32)
 参加費 800円

主催 阿佐ヶ谷市民講座 090-8080-6860

■東京・新橋アクション・第30弾 東電直撃デモ

と き 2月20日(火) 街宣17:30～デモ18:30～
 ところ 新橋SL広場前で街宣。桜田公園に移動してデモ出発。デモのあと交流会あり。
 連絡先 なんぶユニオン 03-3778-0717

■大阪・映画「祝福(いのり)の海」上映会

と き 2月24日(※中止となりました)

■NAZEN東京ビキニデー集会

と き 2月24日(土) 18:30～
 ところ 阿佐ヶ谷地域区民センター3・4集会室

■NAZENナガサキ結成6周年集会

講演 大石芳野さん
 と き 2月25日(日) 13時半～
 ところ 男女共同参画推進センターアマランス研修室

■さようなら原発代々木大集会

と き 3月21日(水・休)
 ところ 東京・代々木公園
 主 催 「さようなら原発」一千万署名 市民の会

3.11 反原発福島行動 '18

日時 3月11日(日)
 13時～ 集会(12時開場)
 15時～ 郡山駅前までデモ
 会場 郡山市民文化センター大ホール
 (福島県郡山市堤下町1-2)
 主催 3・11反原発福島行動実行委員会
 TEL/FAX 024-905-7759(勤労福島)
 メール 3.11fukushimaaction@gmail.com
 郵便振替 口座番号 02220-2-135317
 加入者名「3.11反原発福島行動実行委員会」
 賛同大募集! 一口1000円

◆◆◆ 診療所基金はこちら ◆◆◆

福島診療所建設委員会の口座へ

- ★郵便振込口座 02200-8-126405
 福島診療所建設基金
- ★銀行口座
 福島銀行 本店(110)普通 1252841
 福島診療所建設基金 代表 渡辺 馨
- ★PayPalでのお振り込み
 アカウント
clinicfukushima@yahoo.co.jp
 渡辺馨(福島診療所建設委員会)

